

## 令和6年度第1回廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議（要点）

日時：令和6年8月23日（水）

18時00分～19時30分

場所：廿日市市役所7階会議室

### 1 開会

### 2 委員紹介

### 3 座長指名

座長 山川 肖美 委員

### 4 座長挨拶

廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略は7年前に、私が座長で佐藤委員が副座長という形で、作ったところからの縁となる。他の自治体と比べ、砕けた表現や見ないような表現となっているが、これは座長が勝手に作った訳ではなく、当時の全委員や市職員等を交え、すべてワークショップ形式で対話の中から廿日市らしさを意識して戦略として作っていったものである。

いわゆる伝統的な会議形式ではない方法で作ったため、革新的なものができたのかもしれないという思いがその当時はあった。みなさんの思いで創り出したという意味では、自分たちの子を育ててくような思いが現総合戦略にある。一方で、7年経過し策定当時と違っている状況が様々出てきており、この移り変わりの中で、行政が作る計画をいかに実効性を持たせるかということと言うと、どれだけの市民と計画を共有できるかとか、目的を共有しながらそれぞれの立場でやっていくことが非常に重要になってきていると思っている。

今日もここに掲げてあるKPIは、当時掲げたものになっている。本日の議論では、当時掲げたこれらのKPIを基に意見を交わしつつ、KPIでは計れないところとか、或いはもう少しこういう観点が必要なんじゃないか、というようなことも意見をいただきたい。そうすることで、これまでの7年間の変化や、これから変えていかないといけない部分に思い至るのではないかと思います。基本的には、今日議論いただきたいことは、昨年度、或いはこれまでの取り組みについてだが、今までは行っていないが必要だというようなことも意見をいただけたらと思う。

### 5 議事

（1）令和5年度廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果について

◎事務局 資料1－1説明

◎各委員質問等

【基本目標1】

委員）観光消費額と、観光客1人当たりの消費額は、令和5年をトップに、令和7年に向

け下がっていくものか。消費額の単価も4300円から4000円に下がっていくものか。  
市)観光消費額1人当たりの4000円は目標値が4000円ということである。令和5年度の  
段階でその目標値を上回ってすでに4300円となっている。K P I の変更ということ  
の議論もあったがあくまでもこれは計画であるため、変えずに4000円としている。  
ただ、4300円で満足するのではなく、もっと増やす取り組みを行っている。

委員) インキュベーション施設を終了し、創業支援補助金を創設したということだが、  
施策1のK P I 「創業支援等事業計画を活用した市内創業者数」が令和5年度に  
減少している。これは、インキュベーション施設を閉鎖し、創業支援補助金を創  
設したことがマイナス要因になった可能性はないか。

市) インキュベーション施設について、民間による施設が増えたこと、インキュベ  
ーション施設は創業間もない方が利用する狙いだったが実態は利用者の循環がなく  
固定化していることがあり閉鎖をした。創業の件数については、創業に不向きな  
状況はあると思っており、燃料費の高騰により創業意欲が沸いてこない状況が令  
和5年度に残っていたものと認識している。

委員) しゃもじん創業塾がもうすぐ創業する人のための制度というイメージだとすれば、  
これから創業する人のための制度としてスタートアップ施設等を整備する事は行  
わないのか。

市) 今の段階ではスタートアップのための設備整備を想定していない。

委員) 地産地消宣言店について、制度を利用したいお店が数多くあるように思う。生産  
者と飲食店とのマッチング自体も増やしていけるような施策になればいいと思う。

市) 認定農業者と生産時期などをまとめたカタログを飲食店へ配っている。それによ  
りマッチングが図れ取引が始まっていけば、それらの情報をホームページに掲載  
し広く周知することを今後計画している。

## 【基本目標2】

委員) 0から9歳及び30代の転入が多い中で、実際に廿日市市の転入者へ理由を聞く取り  
組みをしていれば教えて欲しい。

市) 転入者へ理由を聞く場を作っていない状況である。

委員) 他市町もプロモーションをしている中で廿日市市が選ばれたことには理由がある  
と思う。もしそれを聞ければ効果的なプロモーションにつながると思うため検討  
いただきたい。

委員) 基本目標2の施策1のK P I に関連して、20歳代～40歳代の転出者数はどうか。

市) 転入者数より転出者数が多い状況である。

委員) 転入者数が目標地に近づいたとしても、転出者数がそれを上回ってしまえば人口  
増とはならないため、転出者数も意識をしたい。

委員)今後の対応の中山間地域の魅力向上に関する記載はどのように総合分析に結び付くのか。

市)総合分析に中山間地域における人口減少の記載があるとおり、社会減という状況が特に佐伯地域にあるため、中山間地域の回遊促進により魅力ある地域を知ってもらうというところが結びつく。

委員)施策2のKPI「現在の地域に住みたいと思う市民の割合」について、住みたいと思わないという回答をした人に対して、聞き取りをしているのであれば教えてほしい。

市)聞き取りは行っていない。ただ、10代、20代の年齢層は、転出者数が多い一方で、30代から40代の年齢層は転入者数が多い。直近の5年間はこのような傾向になっており、進学や就職により一旦は廿日市を出るけれども、結婚や出産を契機に戻ってくるものの分析している。

委員)広島県内に対するプロモーションは単なる人口の奪い合いになっているという視点もある。プロモーションは広島に対してであったり、東京に対してであったり、どのような地域に対して重点的に行ってるものか。

市)プロモーションのターゲットとして広島都市圏を考えており、広島市近辺に対して重点的に取り組んでいる。

ただ、関東圏に全く働きかけをしてないわけではなく、移住定住フェアへの参加や今年度からは国の施策に追随する形で、関東圏から廿日市市に移住した人に対しての移住支援金の施策を始めている。

委員の指摘のとおり、広島都市圏内での人口の取り合いでは、全体的に人口減少が進む中で限界があると感じている。関東圏を視野に入れプロモーションをしていかなければならないと感じている。

委員)高校生が進路選択をするにあたり、親の意見が大きな影響をあたえたと聞く。親はテレビCMを行ったり直接消費者と取引したりするような知名度の高い企業に就職してほしいと考える傾向にあるが、企業間取引を行うような地元企業であっても魅力のある会社はたくさんあり、その魅力ある地元企業をいかに生徒やその親に知ってもらうかが若年者の地域定着につながると考える。

市)市では昨年度から「ワークはつかいち」という冊子を作り、中高生や成人式の際に配っている。特に中高生には、家に持ち帰り親に渡すだろうという意識のもとに配布をしている。この取り組みは今年度も拡大し続けていく予定となっている。

#### 【基本目標4】

委員)廿日市にこれからどういう特徴を持たせるかということが、見えなくなってきたような気がしている。他都市と競争していく中で、どこかと競争するための指

標っていうのができてしまっていると感じており、もう一回、磨き直さなければ廿日市の特徴がぼんやりしてくる可能性があると感じている。

基本目標の4は住んでいる人がこれからも住み続けることを重視している目標だと思うが、KGIは△で、KPIも例えば、施策2のKPI「②市内の犯罪認知件数（廿日市署管内）」や「③適切に医療機関を利用できると思う市民の割合」、施策3のKPI「②支所周辺が地域の中心地としてふさわしいと思う市民の割合」など市民の意識が反映されるものは△となっている。住んでいる人の不安感などが見え始めていると思っている。転入してくる方たちがいなければ転入超過にならないため、そこに対する取り組みを進める一方で、廿日市の良さを見直さなければいま住み続けている方たちの不安感が増し、そこに一緒にいるこどもたちへも伝播していくと考えるため、特に基本目標4の進捗状況が△となっている指標を改善する方法を考えていく必要があると思っている。

市)市民アンケートの結果を見ると合併前の5地域で差がある。例えば、施策3のKPI「②支所周辺が地域の中心地としてふさわしいと思う市民の割合」では、吉和支所複合施設が整備されたこともあり、100%が支所が中心という回答になっている。クロス集計なども活用し分析を行い評価を充実させたいと思う。

## 6 閉会